

# 日本重症心身障害学会 令和7年度第2回理事会議事録

日時 令和7年11月20日(木) 16:00~17:50

場所 三重県津市 アストプラザ アスト津4F 会議室2

出席者 口分田政夫(議長)、石井光子、須貝研司、鈴木郁子、曾根 翠、中川栄二、根津敦夫、濱口 弘(監事)、松葉佐 正、村田博昭(第50回大会長)、佐々木征行(書記)

## 1. 報告事項

- 1) 会務報告(口分田理事長) R7年7月以降の会務が理事長より報告された。主な報告内容
  - 9月 三井住友銀行 学会通帳の名義変更(倉田先生→口分田理事長)
  - 9月 JMSより「新規格・旧規格経腸栄養製品の賢い使い分けマニュアル」のリンク掲載申請→許可
  - 9月 カルニチン・サイエンスより当学会誌の図表引用の依頼→転載許可
  - 9月 第62回重症心身障害児(者)を守る会に理事長が来賓として出席
  - 10月 財団法人はるたか会創立10周年感謝の会に理事長が参加
  - 11月 学会WEBサイトに50周年記念ページを公開
- 2) 令和6年度事業報告
  - ①第49回学術集会開催: 令和6年11月8日(金)~9日(土)、神戸国際会議場(曾根理事)  
参加者 約1500名、事後アンケートも「良かった」「非常に良かった」が多かった。
  - ②学会誌の発行: Vol.49 No.1, No.2, No.3 順調に発行された。
- 3) 委員会・部会報告(議事録は会員専用サイトを御参照ください)
  - i. ①将来検討委員会(口分田理事長)
    - ②学会体制整備検討部会(松葉佐理事) 入所施設利用者の年齢構成の推移(当日配布資料)の説明
      - ・古い施設では、30代以降がほとんどで特に50代以降の増加が目立つ。これは九州でも全国でも同じ傾向。医療技術向上の恩恵。在宅医療が進んでいる。今後どう対応していくかが大きな課題。
      - ・スコットランドの「Health and Social Care Standard」(改訂版)について説明。保健社会福祉サービスの理念。最近の大きな変更点は、主語がYouからIに変わった。当事者目線で記載された。→この内容を取り入れて我が国の重症心身障害ケア・医療の将来構想を練る。
    - ③歴史・用語・理念・倫理部会(根津理事) ・学会HPにある用語集の改定予定。内容が古くて少ないので、英語表記含め新しい用語を入れたい。・HPにある当学会の理念についても検討予定。
  - ii. ①社会活動委員会(石井理事)、医療的ケア児・者支援検討部会(田中理事欠席)
    - ・通所施設では、研修を受けた支援員などが注入や喀痰吸引などを行える。しかし入所施設ではこれらの医療行為は、支援員には許されていない。制度改善のために学会として後押しをお願いしたい。
    - ・医療ケア児については、重症心身障害児に的を絞って検討したい。
    - ・社会活動としては、在宅家族支援を目指して発信したい。移行期を重視して課題吸い上げを行う。
  - ②新規コネクタプロジェクトWG(口分田理事長)
    - ・コネクタプロジェクトで「新旧コネクタ使い分けマニュアル」を作成した。この成果物は、行政、栄養関連の業者などからリンクを申請されるなど活用されている。
- iii. 医療・福祉制度検討委員会(木実谷理事欠席)
  - ・今後は天江評議員を中心に活動をお願いすることにしたい。天江評議員にはこれから依頼する
- iv. 看護専門研修委員会(口分田理事長)
  - ・診断と治療社から発行しているテキスト(診療看護マニュアル)を改訂に備えて、看護担当部分の記載を看護基準として検討していく。日本重症心身障害福祉協会認定の専門研修制度を学会員にも活用できるように周知していく。
- v. リハビリテーション委員会(鈴木理事) 2か月ごとに委員会を開催。担当を決め今までの実績などを話してもらい勉強会を開催し、学会のシンポジウムの内容の検討のヒントにしている。
  - ・倫理委員会(鈴木理事) 研究の倫理指針について、学会抄録、報告や論文発表時の研究倫理指針の啓蒙について話し合った。これとは別に、生命倫理について当学会として提言を進めることの話し合いをした。
- vi. 基準・手順・治療指針・マニュアル検討委員会(佐々木理事) 各部会などで検討を行っている。
  - ・重症心身障害児・者てんかん治療指針作成部会(須貝理事) 重症児者の発作を1/2以下にできるてんかん治療指針の作成を目指しているが、強いガイドラインではなく、あくまでも指針案を参考に通常のてんかん治療を行うこととしている。12施設でこの案を利用しててんかん発作が改善するかどうか実践検討していただいております、10月現在、9施設から73例報告(6例は効果判定困難な記載のため再提出を依頼)いただ

き、1例を除いて発作は1/2以下に減っている。指針案の妥当性など、結果については来年の本学会学術集会で発表予定である。

- ・痙縮治療部会(根津理事) 整形外科医を含めて検討を進めていく。
- ・呼吸器・感染症WG(村田理事) 本学術集会で抗菌薬使用に関する会長講演と感染対策シンポジウム実施
- vii. 日中活動・療育・ICT委員会(後藤理事欠席) 日中活動専門家チームを立ち上げ、協議する。
- viii. 編集委員会(中川理事)：学会誌の発行：vol149 No1, 2, 3 順調に発行した。
  - ・投稿状況(別紙) 毎年25編程度の投稿がある。できるだけ採択するようにしている(90%くらい)。医師・看護師の投稿が多いが、大学院生などからも投稿がみられる。
- ix. Web・広報委員会(曾根理事)
  - ・学会員専用ページを立ち上げた。
  - ・新着情報や役員等のページは、学会事務局で変更可能になった。
- ③その他(曾根理事)
  - ・会員管理システム「学会バンク」導入
  - ・有馬正高名誉理事長追悼サイト(有馬正高, (1929 - 2022) - 想いでサイト)維持、公開

#### 4) 収支決算報告(曾根理事・庶務幹事)

平成6年度の収支決算が報告された。学会誌費用(印刷・製本・発送)が値上げされ、163万円余り予算超過。J-stageも25万円予算超過。学術集会予備金(150万円)未使用、全体で31万円余りの赤字。

#### 5) 会員動向および役員人事

##### ①会員動向(曾根理事・庶務幹事)

個人466人入会、302人退会。3団体入会、1団体退会。前年比166増の2310会員(医師は886人)

##### ②役員人事(口分田理事長)

###### i. 退任評議員

- ・高橋良枝(東京都・看護師)
- ・直井寿徳(東京都・理学療法士)

###### ii. 新任評議員(第1回理事会承認分)

- ・石原あゆみ(千葉県・医師)→医療的ケア児・者支援検討部会
- ・垂髪あかり(徳島県・教員)→日中活動・療育ICT委員会
- ・岸本光夫(神奈川県・作業療法士)→リハビリテーション委員会
- ・久保田雅也(東京都・医師)→歴史・用語・理念・倫理部会
- ・郷間英世(兵庫県・医師)→リハビリテーション委員会
- ・田村和宏(京都府・教員)→医療・福祉制度委員会
- ・虫明千恵子(東京都・言語聴覚士)→リハビリテーション委員会

##### 6) 名誉会員推薦

・熊谷公明 第23回大会長 元評議員

- ・役員再選規定 3年ごとの再選は決まっているが、更新手続き(更新資格等含め)が決まっていない。  
→松葉佐理事にたたき台を作成していただくことになった。

##### 7) その他

## 2. 協議事項

### 1) 令和7年度事業計画

- ①第50回学術集会開催(村田会長) 先週末で900人以上の参加登録
- ②学会誌の発行(中川編集委員長)：vol.50 No.1, No.2, No.3 順調に発行している。
- ③総会、諸会議の開催：理事・評議員会(第2回理事会後) 総会(学術集会1日目) →承認された
- ④50周年記念事業：→承認された
  - ・学術集会での記念講演・シンポジウム(村田会長)
  - ・学会ウェブサイト上への記念ページ作成公開(口分田理事長)
  - ・アーカイブ保存(口分田理事長)

### 2) 令和7年度予算案・令和8年度年会費改正案(曾根庶務幹事)

- ・令和7年度予算案  
学会誌の印刷・製本・発送費用を実績に基づき計上し、50周年記念ページ作成のためホームページ運用費が増額されるため、単年度収支は約162万円赤字になる。 →承認された

- ・令和8年度年会費改正案  
事務局人件費の値上げ（サービス残業をなくす、医療保険の対象となるよう）のためには、  
医師・歯科医師のみ1万円に増額が必要。 →承認された
- 3) 庶務幹事増員、新庶務担当理事推薦(曾根庶務担当理事)
  - ・江添隆範評議員(東京都立東大和療育センター診療部長)を新庶務担当理事 →承認された  
曾根理事は庶務幹事業務担当理事として、2人体制で活動していただく
- 4) 新役員推薦
  - ・丸山幸一氏 医師 愛知県医療療育総合センター中央病院副院長 →承認された  
石原あゆみ評議員と久保田雅也評議員の所属部会が決定(前述)
- 5) 倫理委員会より提案(鈴木理事)
  - ①研究論文の倫理的配慮チェックリストについて 編集委員会と連携して作成する →承認された
  - ②出生前診断、生命倫理、命の淘汰などについて、諸先生方より意見をもらいながら検討し学会としての「いのちの提言」を行いたい(委員は口分田、松葉佐、曾根、郷間、若本先生、将来検討委員会の生命倫理担当委員、倫理委員会委員) →承認された
- 6) 松葉佐理事より提言  
報告事項で説明済み。当事者目線を入れてCare Standardの作成を進める。 →承認された
- 7) メディカルオンラインの掲載期限変更と活用案(口分田理事長)  
これまでの発行後2年以前までを、今後は発行後1年以前までに短縮化 →承認された
- 8) 学会事務局体制について(口分田理事長)  
勤務時間を増やす。上記の通り、サービス残業をなくし、労働保険の対象となるよう。 →承認された
- 9) 第51回(令和8年度)学術集会:愛媛県、若本裕之副会長
- 10) 第52回(令和9年度)学術集会:宮城県、天江新太郎評議員
- 11) 第53回(令和10年度)学術集会:東京都、曾根翠理事 →承認された
- 12) その他
  - ①”route for learning”日本語版作成・発行について (曾根理事)  
Non-verbal communicationの障害児者のアセスメント支援に使用されるよう開発された。  
曾根理事が著作権者と親しいことより、著作権に関する交渉が可能なので、リハビリテーション委員会を中心に日本語版を作成し、学会で発行したい。 →承認された

### 3. その他

次回開催:令和8年度第1回日本重症心身障害学会理事会 令和8年5-6月頃